

Institute for Indian mother and Child Japan

インド人母子の会

IIMC 活動報告

2007年12月

今後の活動を考えるために

インドへ行って視察してきます

インド人母子の会の活動は、国内に関わる経費を最小限にして、集めた募金をすべてインドに送るようにしてきました。そのため、活動資金も十分ではなく、最近はあまり積極的な活動が出来ていないのが現実です。

しかし、幸いに IIMC は、主にヨーロッパの国々の支援を受け、順調に活動を続けることが出来ています。インド・コルカタでも、かなりその活動が認められるようになってきています。

インド人母子の会として、現在のインド IIMC の活動をさまざまな視点から見つめ、今後どのような活動ができるかのを考えていると思っています。

私の仕事の都合上、3月末頃に時間が取れそうです。視察した結果はまたお知らせいたします。

インターネットのサイト

報告書としてまとめるのには時間がかかっていますが、IIMC から送られた資料は、できるだけ早くインターネットのサイトに掲載するようにしています。インターネットのアクセスなどあるようでしたら、ご覧ください。

<http://iimcj.blogspot.com/>

また、この報告書はカラーで作成していますが、コストの関係上みなさまにはモノクロの印刷にてお届けしています。インターネット上ではカラー版をごらんいただけますので、ご覧ください。

<http://iimcj.eccl.net/>

ウシャパラ 学校の建設

USHAPARA - High School Construction on Progress

IIMC ではコルカタ（カルカッタ）から南西 30Km ほどに位置するウシャパラ村にひとつの学校を建設中です。

- ★ 5年ほど前から、この小さな村でタイル屋根の小学校を運営しています。
- ★ 今回の学校は、コンクリート製の屋根で規模も大きなものとなります。そのため、より多くの生徒が学ぶことができます。学校そのものがアップグレードすることになるのです。
- ★ この場所で、グラミン銀行のようなマイクロクレジット・プログラムも始めることができます。
- ★ ここでの教育とマイクロクレジット・プログラムによって、この地区全体の貧困と文盲を改善していくことができます。



安全な飲料水プロジェクト

IIMC は貧しい人たちに安全な飲料水を提供したいと考えています。

- ★ 西ベンガル州の僻地にある 10 の村で、10 の深井戸を掘り進めていきます。
- ★ 安全な飲料水は健康の基礎です。農村部における 80% の病気は、不衛生な水から生じているものです。



パタル・プラティマ (Pathar Pratima) 学校プロジェクト

ガンジス・デルタ地帯の田舎の村に新しい学校の建設を進めています。

- ☆ IIMC はベンガル湾のデルタに位置する田舎の村に女の子のための幼稚園、小学校、中高校を建設する決心をしました。
- ☆ このレポートの写真には、貧しい村人によって建てられた学校を見ることができます。
- ☆ IIMC は学校建設用の土地を贈呈されました。ここに、コンクリート製の学校を建設してきます。
- ☆ 教育は知識をもたらします。将来的には、すべての女の子たちが読み書きができるようになり、自立と自尊をもたらすことになるでしょう。



[今までの学校、新しいコンクリート製の学校をつくる計画をしているところ]

また笑って、ジョイシー！

ジョイシーは都会から離れた貧しい家庭に生まれました。とても不幸なことに、彼女が生まれて以来、家庭内には今にも窒息しそうな争いが絶え間なくありました。それは、彼女が女性であったのと、母親がとても貧しい家庭の出身であるため、文盲であったことが関係していました。

家族内での暴力などが日常となっていたため、ついにジョイシーの母親は、ジョイシーと線路に飛び込んで自殺を図りました。幸いなことに周りには大勢の人々がいて、彼女たちを線路の外に押し出してくれました。しかし、不幸なことにジョイシーは、完全に逃れることができずに、線路に捕まり、彼女の片足を車輪が切断してしまいました。

ジョイシーは、IIMC ヘルスセンターに連れてこら



れ、IIMC プライマリヘルスケアのチームができる限りの治療を行いました。ジョイシーは初期のショックから立ち直り、治療にもよく反応しました。そして、一週間後より適切な処置のために、IIMC ヘルスワーカーの手で大学病院へ運ばれました。ジョイシーを支えるためには、多額の費用の他にも、たくさんのケアと愛が必要でした。IIMC は何とかジョイシーの命を救わなければなりません。



になりました。

3ヶ月後、ジョイシーはIIMC ヘルス・センターに戻ってきて、精神的なショックから立ち直りつつありました。

彼女の傷は良くなり、通常の生活に戻りつつあります。ジョイシーがあそび、笑顔を見せる日がすぐに来ることを願って！



ここで、パロラとステファノに対して感謝の意を捧げたいと思います。

IIMC 活動報告 2007年12月発行 ID200717
発行：インド人母子の会 代表 国重 浩一

また笑って、ジョイシー！